

目次

この Readme ファイルで説明するトピックは次のとおりです:

- I. 概要
- II. サポートしているソフトウェア
- III. パッチの内容
- IV. VCS エージェントのインストール
- V. サポートしている機能と制約
- VI. 既知の問題

I. 概要

Veritas Storage Foundation (TM) and High Availability for Windows (SFW HA) 5.0 に対応するこのパッチは、Microsoft Exchange Server 2007 の高可用性とディザスタリカバリのサポートを追加します。パッチには Exchange 2007 の VCS エージェントが含まれています。

Exchange 2007 の高可用性とディザスタリカバリの設定方法について、詳しくはパッチの一部として提供されている PDF を参照してください:

SFW_HA_DR_E2K7_Solutions.pdf (『Veritas Storage Foundation and High Availability Solutions, HA and Disaster Recovery ソリューションガイド Microsoft Exchange 2007』)

リリースノート、テクニカルノート、その他のホットフィックスやパッチなどの SFW HA 5.0 に関する情報について、詳しくはシマンテック社テクニカルサポート Web サイトを参照してください:

<http://entsupport.symantec.com>

II. サポートしているソフトウェア

このパッチは次のソフトウェアのみをサポートしています:

- Veritas Storage Foundation and High Availability for Windows (SFW HA) 5.0
- Microsoft Exchange Server 2007 Standard Edition or Enterprise Edition
- Windows Server 2003 x64 (SP1 必須、SP2 をサポート) (Standard Edition または Enterprise Edition)
- または
- Windows Server 2003 R2 x64 (Standard Edition または Enterprise Edition)

システムとソフトウェアのその他の要件については、付属のソリューションガイドの PDF を参照してください。

III. パッチの内容

パッチの zip ファイルには、次のファイルが含まれています:

- vrtsvcsexch.msi - VCS エージェント msi ファイル
- InstallVCSExch2007.bat - VCS エージェントをインストールするためのバッチファイル
- UninstallVCSExch2007.bat - VCS エージェントを削除するためのバッチファイル
- SFW_HA_DR_E2K7_Solutions.pdf - 『Veritas Storage Foundation (tm) and High Availability Solutions, HA and Disaster Recovery ソリューションガイド Microsoft Exchange 2007』

IV. パッチのインストール

Exchange 2007 の高可用性を設定するには、このパッチが提供する Exchange 2007 の VCS エージェントが必要です。SFW HA 5.0 をインストールした後に、このパッチをインストールする必要があります。

パッチをインストールするシステムの一時的な場所に、パッチの zip ファイルを解凍します。エージェントの .msi ファイルと .bat ファイルはディレクトリ内の同じ階層に保存してください。

VCS エージェントのインストールは、次の手順で行います:

1. システムがクラスタの一部である場合は、次の手順を実行します。そうでない場合は、手順 2 へ進みます。

- クラスタのすべてのサービスグループがオフライン状態であることを確認します。
- クラスタ設定を保存して閉じます。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します：
C:¥> haconf -dump -makero
- すべてのクラスタノードで Veritas High Availability Engine (HAD) を停止します。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します：
C:¥> hastop -all

2. InstallVCSExch2007.bat をダブルクリックします。.msi が Exchange Server 2007 の VCS エージェントをシステムにインストールします。

3. VCS エージェントをインストールするすべてのシステムにおいて、手順 2 を繰り返します。

4. システムがクラスタの一部である場合、この手順を実行します。VCS エージェントをインストールしたシステムで HAD を起動します。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します：
C:¥> hastart

注意：VCS エージェントをインストールするには、UninstallVCSExch2007.bat ファイルの使用を除くこれらの手順を繰り返します。

V. サポートしている機能と制約

このパッチがサポートする高可用性とディザスタリカバリの機能には、いくつかの制約があります。

- 高可用性とディザスタリカバリはメールボックスサーバーロールのみをサポートしています。Exchange をインストール中に、メールサーバーロールをインストールするシステムに他のサーバーロールをインストールしないようにしてください。すでに同一のサーバーにメールボックスサーバーロールを他のサーバーロールとともにインストールしている場合は、SFW HA 環境に Exchange を設定する前に、他のサーバーロールを削除する必要があります。

- Solutions Configuration Center は、Exchange 2007 の高可用性とディザスタリカバリの設定には使用できません。代わりにこのパッチに付属する『ソリューションガイド Exchange 2007』PDF に記載されている手順を使用してください。

- このパッチは Cluster Continuous Replication (CCR) と Local Continuous Replication (LCR) をサポートしていません。

VI. 既知の問題

- Best Practices Analyzer のヘルスチェックがサーバー名不一致エラーで失敗する (1020950 と 1020958)

Exchange Server Best Practices Analyzer を使用してクラスタメールボックスサーバーにヘルスチェックを実行しようとする、次の例のように、テストがサーバー名不一致エラーで失敗します：

サーバー名がサーバーと不一致：EVS1

Exchange サーバー名 EVS1 が、レジストリと Active Directory と一致していません。このコンピュータは名前が変更されたか、サードパーティーのクラスタソフトウェアを実行している可能性があります。レジストリのホスト名：CNODE1。

-Exchange サービスグループにノードを追加すると、RegRep リソースが「UNKNOWN」状態になる (1015614)

Exchange サービスグループでノードを追加または削除すると、RegRep リソースが「UNKNOWN」状態になる場合があります。

回避策：

1. オンライン状態のサービスグループ上のノードで、Veritas High Availability Engine (HAD) を停止します。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します：
C:¥> hastop -local -force

2. クラスタノードで HAD を起動します。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します：
C:¥> hastart